

2020年5月31日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨日 メッセージ

「聖霊降臨の出来事～それは聖書の御言葉が外国語ではなく母語になった～」

使徒書 使徒言行録 2章1節～11節

福音書 ヨハネによる福音書 20章19節～23節

主の平和が皆さんと共にありますように。

復活日から50日目にあたる聖霊降臨日を迎えました。教会の三大祝日（イースター、クリスマス、聖霊降臨日）の一つに数えられる大祝日です。当初の予定では本日から一同に会する礼拝を再開する予定でしたが、1週間延期となり6月7日の三位一体主日からとなりました。皆さんと再び礼拝をご一緒に出来る日を感謝します。しかし、コロナ以前のような礼拝、諸集会を行うことは来週からも出来ません。コロナ予防対策をしながらの礼拝、そして諸集会も最小限にしなければなりません。礼拝においてもマスク着用、アルコール消毒、聖歌も1～2曲、陪餐は1種（パンのみ）のみの拝領などしばらくは様々な対応をしなければなりません。窮屈な思いをされると思いますが、すべての人のいのちを大切にすることをキリストの教会の責任としてこの事を皆さんできちんと受け止めながら来主日から礼拝を再開して参りたいと思います。

さて、聖霊降臨日の出来事に心を向けましょう。一体何が起きたのでしょうか。

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ”霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した。」（使徒言行録2:1～4）

イエス様のご復活から50日目（五旬祭）の日に弟子たちは一同に会していました。そこに不思議な出来事が起きたのです。突然炎のような舌が現れて、使徒たち一人一人の上に留まったのです。そして今まで話したことがない自分たちの母語でない言葉で話し出したのです。

例えるならば日本語を母語とする人が突然、他の言語で語り出したのです。

私たちは現在は、当然のように日本語訳で聖書が読めますが、最初に日本語に翻訳された聖書は、ギュツラフの「約翰福音之傳」（ヨハネ福音書）と「約翰上中下書」（ヨハネの手紙1、2、3）です。ヨハネ福音書は、1835（天保6）年～36年にかけて、3人の日本人漂流船員（岩吉、久吉、音吉）の助けを借りて、マカオで翻訳され、1837（天保8）年、シンガポールで木版刷りで印刷されたものでした。1,690冊印刷されたと伝えられていますが、現在、世界には16冊しか残っていません。「ハジマリニカ

シコイモノゴザル」で始まる全文カタカナで、翻訳の苦労が偲ばれます。この聖書は、その後の研究によると3回印刷されたようです。しかし、1838（天保9）年7月のアメリカ聖書協会の委員会の記録によると、この翻訳は聖書協会が要求する水準にないとの理由で、印刷を打ち切られています。

ギュツラフの日本語翻訳聖書は、結果としては印刷が打ち切られましたので質としては良くなかったのでしょうか。しかし、何とか日本語で神の御言葉を伝えようと一生懸命に訳した聖書の御言葉に触れた人はどんな気持ちだったのでしょうか。

私たちと親しい交流の時が与えられたジャックリーン司祭が日本を離れて1年がたちます。彼女が八戸聖ルカ教会で1度、日本で福音書を朗読して下さったことがありました。また、聖ルカ教会での昨年の最後の主日礼拝奉仕で聖餐式の感謝聖別文を日本語で緊張しながら一生懸命に唱えて祈って下さいました。決して流暢な日本語ではありませんでしたが、私の心にしっかりと響きました。

ギュツラフもジャックリーン司祭も母語ではない言語である日本語を用いて御言葉そして祈りを私たちに伝えて下さいました。

世界に目を転じればまだまだ母語で聖書を読むことが出来ない国の人々がたくさんいます。

母語に触れる、母語を聞くことが出来る喜びはホームにいるときはあまり感じないかもしれません。ホームと違う環境、状況におかれた時にその喜び、安心感を強く感じるのではないのでしょうか。私自身の経験からも思います。

神様は情熱を持っておられるお方です。旧約聖書に「わたしは熱情の神である」（出エジプト20:5）とあります。

神様は私たちに熱い情熱の内に私たちに語りかけ、その呼びかけはこの世界の始まりから今に至るまで続いています。その語りかけに心を向ける、向けないは私たちに委ねられているのです。都合のよい時だけ御言葉に心を向けるのではなく、私たちはどんな時も熱い情熱をもって関わってくださる神さまを信頼していきたいと思えます。

聖霊降臨の出来事は、御言葉がすべての人の母語となって語りかけたのです。

「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」（使徒言行録2:11）

聖書の御言葉が「外国語」ではなく、わたしたちの心に響く「母語」となっていくようにと祈ります。そして、わたしたちがますます御言葉によって支えられ生きていくことができますように。